

カンキツにおける訪花加害性昆虫の生態と防除に関する研究

(第1報) 出荷された温州ミカン果実における被害の実態

関 道生・松尾喜行・鶴 範三・貞松光男
(佐賀県果樹試験場)

SEKI, M., MATSUO, Y., TSURU, H. and SADAMATSU, M.

Studies on the Biology and Control of Flower-visiting pest Insects on Citrus Trees

(I) Injuries on marketing fruits of Satsuma orange.

緒 言

果実の市場価格は食味はもちろんであるが外観によっても大きく左右され、カンキツではこの外観を悪くするものの一つに訪花性昆虫の加害があげられる。著者らはこの害虫の生態と防除に関する研究をはじめめるにあたり、まず訪花昆虫による経済的損失の程度を知ろうとして、共選場および市場に出荷された温州ミカン果実を対象に被害の実態調査を行った。

調 査 方 法

訪花加害性昆虫にはハナムグリ類やケシキスイ類などの甲虫類とスリップス類があるが、果実の外皮を損傷する原因となるものにはほかにも風ずれなどのいわゆる機械的傷害があり、これらはしばしば混同されがちである。著者らはあらかじめ行なった放飼実験の結果によって各害虫による被害症状を確認し、目をならすことによって誤認をさけることにつとめた。

(1) 県内の各共選場に出荷された果実を対象とした調査

佐賀県内に散在する約30の果実共選場に出向き、当日出荷荷づくりされた晩生温州ミカン果実のうち、Mの秀と優の階級に属するもの各2箱を任意に抽出した。そしてこれを1カ所に集め、1箱から任意にとりだした50個の果実について、甲虫類、スリップスなどの訪花昆虫類の被害と思われるものと、風ずれなどの機械的傷害とみなされるものを程度別に調査した。

(2) 東京市場に出荷された果実を対象にした調査
佐賀県内および県外の各産地から東京の市場(丸

一、豊島、荏原、千住など)に出荷された晩生温州の果実のうち、Mの秀の階級に属するもの2箱を任意に抽出し、(1)と同じ11箱から50個の果実について調査した。

調査期間 昭和41年12月20日～21日

結果および考察

それぞれの原因によって生じた傷果の数を目測により激・中・軽の3階級に分け抽出単位別にしたが、この場合は1選果場当りの抽出数が少なく産地別に論ずることは妥当でないと思われるので全共選場を含めた平均値で示した。

出荷された晩生温州果実における原因別傷害果率

	風 傷 果				甲 虫 類				ス リ ッ プ ス 類			
	激	中	軽	計	激	中	軽	計	激	中	軽	計
県内秀果	1.9	19.2	50.7	71.8	0.2	2.8	9.6	12.6	2.1	3.1	6.1	11.3
県内優果	8.5	37.5	37.4	83.4	1.2	5.6	12.2	19.0	4.2	4.1	5.6	13.9
東京秀果	1.3	19.6	53.4	74.3	0.4	2.1	8.9	11.4	1.8	4.7	7.9	14.4

秀果と優果における被害果率を比較することによって、商品価値に及ぼす影響の程度がうかがわれると思うが、この差がもっとも大きいのは風傷果で、また被害果率としても甲虫類やスリップス類などの訪花昆虫による被害率よりずっと高い。訪花昆虫類の中では甲虫類(主としてコアオハナムグリの被害である)による被害果が多く、この虫の被害が多ければ果実の品質階級を落す原因になることを示している。スリップス類については秀果と優果の差が少なく、商品価値に及ぼす影響は前2者よりも少ないことがわかる。